



令和2年度学校だより

甲府市立南西中学校

銀 杏 (いちょう) 第2号

学校教育目標「たくましい心と体を持ち 学び合える生徒の育成」

文責：校長 石井 敬

14日の夕方、マメルメールまたは電話で連絡させていただきましたように、臨時休業が5月6日までさらに延長されることになりました。前回の延長に際しては、その対応（延長の開始日や期間など）は市町村によってまちまちでしたが、今回は県教育委員会より各市町村教育委員会に臨時休業延長の要請があり、それを受けて、甲府市教育委員会が市内および近隣市町村の感染拡大状況を総合的に勘案し、5月6日までの休業延長という判断、決定に至りました。連日報道される感染状況の推移や医療現場の大変さを見聞きするにつけ、私たちも学校再開への心配・不安や疑問が日に日に大きくなっていくところでしたので、まずは「子どもたちの命を守る」という何よりも優先すべきところを大事にした今回の措置は適切な判断であったと考えます。保護者の皆様には、臨時休業が長期にわたることとなりさらにご負担をおかけすることになりますが、何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、今回の休業延長に伴い、次のような対応をとらせていただくことにしました。ご理解いただき、ご確認をよろしく願います。

(1) クラスと担任の発表について

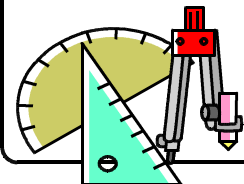
本来であれば、1年生は入学式で、2・3年生は始業式で行うところですが、所属クラスも学級担任も5月までわからないままでは、子どもたち、そして保護者の皆様に不安な気持ちにさせるばかりです。また、今後さまざまな連絡をとらせていただいたり、必要に応じて子どもたちへの指導・支援を行ったりするにも支障をきたすことが考えられます。そこで、同封しました『学年だより』の中に各クラスのメンバーを載せさせていただきました。3週間後の顔合わせに向けて「友だちをいっばいつくるぞ!」、「この仲間と担任の先生と一緒に最高のクラスにするぞ!」といった気持ちを少しずつ高めていってくださることを願っています。



【子どもたちの名前が記される日を待っています!】

(2) 臨時休業中の学習について

今回のさらなる延長により臨時休業も2ヶ月以上となり学習の遅れが気になるころですが、新たな課題を子どもたちに示すことにします。課題の内容もこれまでの復習的なものから、今回は予習的な意味合いも含め、先日お配りした教科書に目を通しながら学習できるものを織り交ぜています。そうすることによって、5月から授業が再開したとき、予習がしてある前提で各教科の授業を進めることができるため、遅れた分をわずかながらでも取り戻すことにつなげていきたいと考えています。長期に及ぶ休業になっていますので、課題に取り組む時間を必ず確保することにより規則正しい生活リズムの確立にも、改めて取り組み直すきっかけにしてほしいと思います。



職員紹介 ～“チーム南西”で頑張ります！！～

校長	石井 敬 (八田小より)	1学年主任	石田 夏子
教頭	七澤 聡	1年副主任・1組担任	山本 健一 (笛南中より)
教務主任	萬 康男	1-2担任	堀内 紳太郎 (新採用)
教務所属	杉本 博之	1-3担任	中込 美香
講師 (1年教務)	田村 崇 (富竹中より)	2学年主任	長澤 宏隆 (北中より)
講師 (1年教務)	村上 由紀乃 (西中より)	生指主事・2年副主任	堀 達彦
養護教諭	遠藤 千帆	2-1担任	西岡 妙子
事務主査	深澤 圭子	2-2担任	今村 一輝
支援員	湯本 伸江	2年教務・5A担任	赤池 朝美
図書館司書	佐々木 里枝	3学年主任	松田 智子
学校技能員	浅川 公司	3年副主任	岡田 哲也 (城南中より)
給食配膳員	山野 八入	3-1担任	宮下 凌瑚
スクールカウンセラー	藤原 淳子	3-2担任	白須 銀平
F E T	アンドリュー・アズベル	3-3担任	佐藤 道子
		3年教務・5A担任	遠藤 和香 (新採用)

お下がり教科書

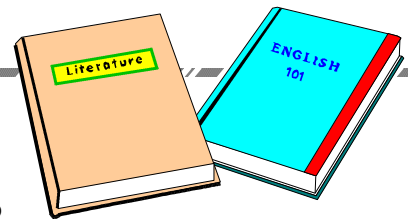
この春、息子が高校を卒業した。その息子から現代文の教科書をもらい受けた。

在学中、あたふたと出かけていった朝のリビングに置きっぱなしになっていた。チラッとめくったとき、「面白そうだな」と思ったのがきっかけで「卒業したら、ちょうだいね」とお願いしてあったものだ。

一つの話が、仕事や家事の合間に読むのにちょうど良い長さ。石田衣良さんや、又吉直樹さん、さくらももこさんなど、人気作家さんのエッセーから、普段なら書店でも手に取らないような分野の評論まで。さらに、詩、短歌や俳句も一冊で味わえるぜいたくさ。何十年ぶりかで再会した「山月記」「星の王子さま」……。

読み終わっても、自分の感じた思いを味わうだけでいい。教科書らしく、それぞれの章の後ろには「問い」や「考察」がついているが、それを読み飛ばせるのは幸せだ。

「教科書をそんなに楽しそうに読む人、初めて見た」と息子に言われた。この楽しさには君がどういう作品を読んできたのかを知ることができることもあるのだよ、というのは、今のところは秘密である。



朝日新聞の「ひととき」という欄に、先日、読者からのこんな投稿を見つけました。コロナ、コロナで重く沈んだ気持ちになりがちなときでしたので、ちょっとほっこりさせられました。教科書が取り持つ息子と投稿者（母親）との微笑ましい間柄を垣間見ることができます。

休業が長引き、お子さんと顔を合わせている時間が多いと、つつい小言が増えてしまいがちかもしれませんが、先週、新しい教科書をお渡ししましたので、それをお子さんと一緒にめくってみてはいかがでしょうか。中学生の時に勉強したことが当時の思い出とともに蘇り、お子さんとの会話が弾むきっかけになるかもしれませんし、お子さんにとっては新学年の学習への意欲につながることも期待できます。お子さんと一緒に時間の使い方を考えていただければ幸いです。